

第5次和歌山県環境基本計画を策定しました ～2050年カーボンニュートラルを目指します～

- 和歌山県の環境施策の基本方針となる「第5次和歌山県環境基本計画」(R3.4～R8.3)を策定しました。
- 計画では4つの基本的な取組「気候変動対策の推進」「自然共生社会の推進」「循環型社会の推進」「安全・安心で快適な生活環境の保全」を一体的に進めながら、「将来にわたり笑顔と活気と魅力にあふれる和歌山」を目指します。
- 計画の特徴
 - ・ 地球温暖化対策の長期目標として「2050年カーボンニュートラル」を目指すことを明記
 - ・ 海洋ごみ・プラごみ対策や食品ロス対策を率先して進めることを明記

気候変動対策の推進

☆ 2050年度の温室効果ガス排出量実質ゼロ(カーボンニュートラル)を目指す。

2030年度の温室効果ガス削減目標として2013年度比マイナス30%

(取組の方向)

- ・ 省エネの推進(省エネ設備の導入促進、省エネ行動の啓発など)
- ・ 地域の環境と調和した再生可能エネルギー導入促進
- ・ 脱炭素に向けた地域づくり(水素ステーション等、基盤整備の促進など)
- ・ 気候変動への適応(自然災害対策、農作物の品種改良、地域気候変動適応センター整備など)

自然共生社会の推進

(取組の方向)

- ・ 生物多様性の保全(自然林の保護、里山の保全・活用、野生生物の保護管理)
- ・ 自然の恵みの活用(自然を活用した地域活性化、森林の公益的機能の維持など)
- ・ 自然と共生するまちづくり(自然の機能を利用したまちづくりや景観の保全など)

循環型社会の推進

(取組の方向)

- ・ ライフサイクル全体での資源循環の推進(食品ロスの削減など)
- ・ 海洋ごみ・プラスチック対策(ワンウェイプラの削減、再利用不可プラの焼却・熱利用等による埋立プラゼロ)
- ・ 不法投棄・不適正処理の撲滅(不法投棄は絶対許さない。)
- ・ 廃棄物処理体制の整備、災害廃棄物処理体制の確立

安全・安心で快適な生活環境の保全

(取組の方向)

- ・ 大気・水・土壌環境の保全
- ・ 騒音・振動・悪臭対策、化学物質対策

基盤整備

- ・ 環境教育、啓発
- ・ 環境影響評価
- ・ 調査研究体制の整備

将来にわたり笑顔と活気と魅力にあふれる和歌山

第5次和歌山県環境基本計画のポイント ①気候変動対策～2050年カーボンニュートラルを目指して～

1 緩和策：温室効果ガス削減

本県の2030年度の温室効果ガス削減目標（第5次計画記載）

部門	主な対策	2030年度 (対2013年度 比)
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 住宅の省エネ化 高効率給湯器・照明（LED） 省エネ家電の導入 使用電力の再エネ化 	57%削減
産業	<ul style="list-style-type: none"> 省エネ法に基づく年1%削減 	21%削減
運輸	<ul style="list-style-type: none"> 次世代自動車の普及、燃費改善 モーダルシフト、輸送効率化等 	33%削減
業務 (オフィス等)	<ul style="list-style-type: none"> オフィスの省エネ化 照明・OA機器等の省エネ化 クールビズ等の実施等 	57%削減
その他	<ul style="list-style-type: none"> フロン対策、バイオマスプラの普及など 	7.5%削減
2030年度（対2013年度比）削減目標 全体で30%削減		

更なる技術革新・意識改革

2050年カーボンニュートラルを目指す取組イメージ

取組（技術革新を含む）の方向	2050年
<ul style="list-style-type: none"> ○エネルギーの脱炭素化 <ul style="list-style-type: none"> 再エネ主力電源化 火力発電については全量CO2回収・貯留（CCS） カーボンリサイクル（CO2を燃料や原料に再利用） ○住宅の脱炭素化 <ul style="list-style-type: none"> 全ての住宅をゼロエネルギーハウスに（LED照明、高効率給湯器、高断熱、再エネ等） ○製造現場の脱炭素化 <ul style="list-style-type: none"> 水素還元製鉄法の導入（コークス⇒水素） 燃料の脱炭素化（化石燃料⇒アンモニア・水素） 製造現場でのカーボンリサイクル ○自動車の脱炭素化 <ul style="list-style-type: none"> 全ての自動車をEV、FCVに ○オフィスの脱炭素化 <ul style="list-style-type: none"> 全てのオフィスをゼロエネルギービルに（LED照明、高効率給湯器、高断熱、再エネ等） ○生活様式の脱炭素化 <ul style="list-style-type: none"> シェアリングエコノミー（モノ、スペース等のシェア） 	温室効果ガス排出量をゼロに

2 適応策：地球温暖化への適応

- これまでの温暖化対策は温室効果ガス排出削減（緩和策）が中心。しかし、気候変動影響は、温室効果ガスの削減策を講じても完全には避けられないことから、影響への適応が必要

【取組の方向】

- ・ 農作物の品種改良や自然災害対策、熱中症対策など、各分野において適応策を進めるとともに、地域気候変動適応センターを設置し、科学的知見の集積及び情報提供に努める。

第5次和歌山県環境基本計画のポイント ②自然林の保護の推進

- **本県には、自然度の高い自然林が数多く残っており、風車や太陽光発電など様々な開発行為から貴重な自然環境を守っていく**

【取組の方向】

- ・新紀州御留林としての公有林化や保安林・自然公園等の各種指定制度等により、そのエリアの保護を図るとともに、環境影響評価法や太陽光条例等により、貴重な自然環境への配慮を求めていく。

第5次和歌山県環境基本計画のポイント ③魅力ある自然を活かした地域の活性化

- **世界遺産や南紀熊野ジオパーク、総面積約6万haを超える自然公園、農業遺産など、本県の自然環境が作り出した魅力ある地域資源を積極的に活用し地域を活性化する**

【取組の方向】

- ・サイクリングやワーケーションなど自然豊かな環境の中で時間を過ごしたいというニーズが高まっており、魅力ある自然を活用した地域の活性化を進める。

第5次和歌山県環境基本計画のポイント ④海洋ごみ・プラスチック対策の推進

- **近年、プラスチックによる海洋汚染が顕在化しており、より踏み込んだ対策を進める**

【取組の方向】

- ・ごみ散乱防止条例等によるまちの美化活動を進めるとともに、マイバッグなど繰り返し使える製品の利用やリサイクルの推進、バイオマスプラスチック等への切替え、埋立処分をなくし、焼却・熱回収等の適正処理を推進することにより、環境中へのプラスチックごみの排出をなくす取組を進める。